



館長にとっては3回目となるライド・デル・エトナ (Raid dell'Etna) 挑戦。終盤にはキャブレターからの燃料漏れという重篤なトラブルに見舞われつつも、大会スタッフや地元のメカニックの協力で、完走を果たした。



Belotti-Marchesi: frizione ko Yokota verso l'incoronazione



表彰式は日本代表選手であることを意識して、和服で参加。敏腕ナビゲーターの大木さんも、自らの操縦により最終日のレディースカップで2位入賞するなどの栄誉は、翌日のイタリアの新聞でも大々的に取り上げられた。



ゴールとなるカーニアでは、すでに優勝者を待ち受ける体制が整っている。一緒にエントリーした世界各国の先輩や仲間に見守られつつゴールし、総合優勝やクラス優勝、レディースカップも含めて、合計で4つの栄冠を手にした。



Profile 横田 正弘さん

TBCCカップでは、受すお孫さんたちを引き連れて参加。その一方でサファリ240Zは既にタイに向けて船積みされており、心は11月のアジア・ラリーに向いているようだ。

の後も首位を守り続けた。ところがラリー最終の5日日夜、キャブレターからの燃料漏れで出火するという事態が発生。一時はラリー継続も危ぶまれたのだが、地元の敏腕メカニックの手で突貫修理が行われ、翌最終日には修復されたランチャとともに、そのまま首位でゴールした。これは国際格式のクラシックラリーにおける、日本人初の総合優勝となったのである。

その傍ら、前号でもお伝えしたとおり、11月にタイ/カンボジアで開催される「アジア・クロスコントリ・ラリー」に向けて、いよいよ愛車サファリ240Zが船積みされたということ、引き続き乞うご期待なのだ。



9月11日の朝、横田正弘館長は3人のお孫さんと、ラリー競技におけるパトリナー、大木悦子さんを伴って千葉県の袖ヶ浦フォレストレースウェイを訪れていた。この日開催されたレースイベント「Tokyo Bayside Classic Cup」に、愛車プラグインとともに参加するためである。勝負事には真剣な館長ながら、この日は終始リラックスしたまま二台の愛車を代わる代わる乗り継ぎ、初秋のサーキット走行を楽しんでいた。

サーキットで肩慣らしを済ませてから約2週間後、館長と大木さんはイタリアに降り立った。7月に参加した「コッパ・ドロミティ」に続く一戦、9月25日から10月1日まで、シチリア島で開催された「ライド・デル・エトナ」にエントリーするためである。

館長は、前回参戦した2019年には総合3位を獲得したことから、こ

どこそ総合優勝を狙っていたようだが、筆者自身も3年前にエントリーした経験があるので良く分かっているのだが、このラリーの上位陣は、イタリアを筆頭とする欧州のラリーで常に優勝争いに食い込む猛者ぞろい。そこでの優勝は容易なことではない。それでも、館長は怯むことなくチャレンジした。相棒となるクルマは7月にコッパ・ドロミティを走った1937年式ランチャ・アウレリアである。

ライド・デル・エトナは毎回コースが変わることになっているのだが、今年にはシチリア州の州都パレルモからスタートし、ワインで有名なマルサーラ、古代ギリシャの遺跡の残るアグリジェントなどの世界的景勝地を巡る一方、山道や市街地、あるいはベルグーサ・サーキットなども使用した、きわめてシビアなPC競技が行われる。

館長はその意気込みを示すように、初日からトップスコアを叩き出し、そ



Datsun 240Z RESTORE

国際クラシックカーラリーで日本人初の総合優勝を達成

text: Hiromi Takeda/武田公実
photo: Masahiro Yokota/横田正弘

2022年7月に海外ラリー復帰を果たしたばかりの横田館長が、この秋シチリア島で行われた復帰第2戦で、日本人初の総合優勝という快挙を成し遂げた。その模様をレポートしよう。